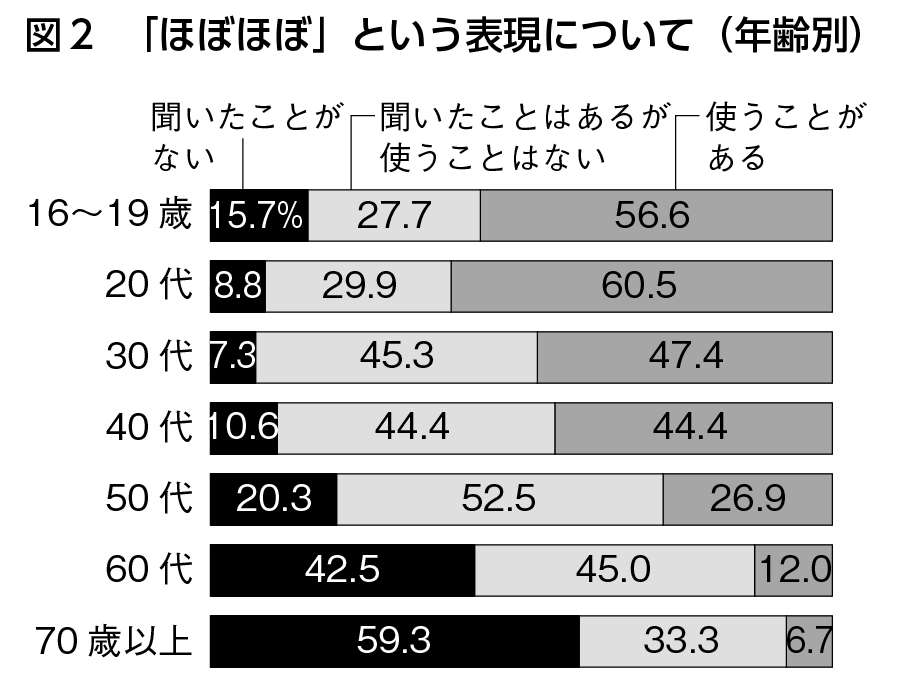
基礎編　２　グラフ・図表の読み方

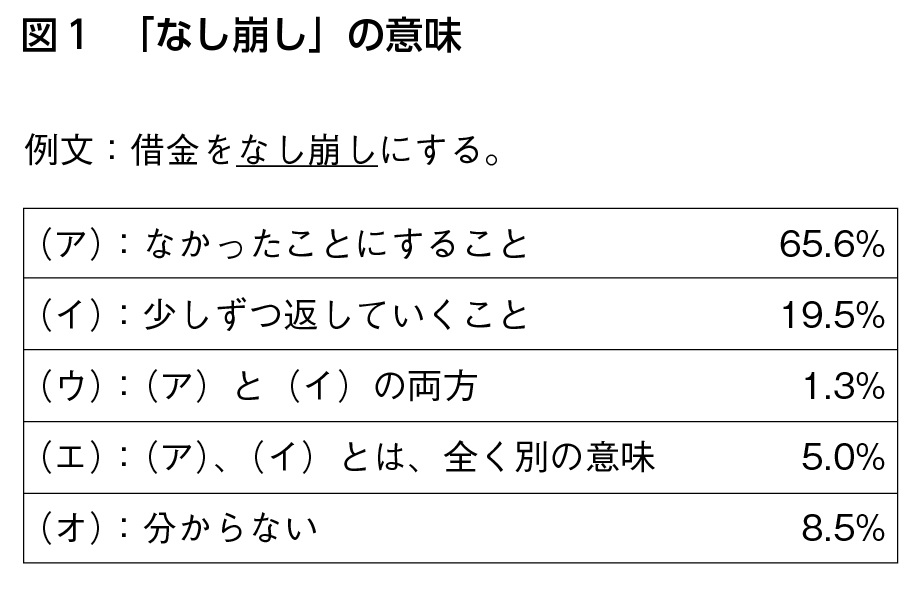
　表やグラフは、データを正確に示したり、変化の様子を理解しやすくしたりするために作られる。そこには、事実のほかに、その表やグラフによって何を言いたいのかという意見が含まれていることが多い。

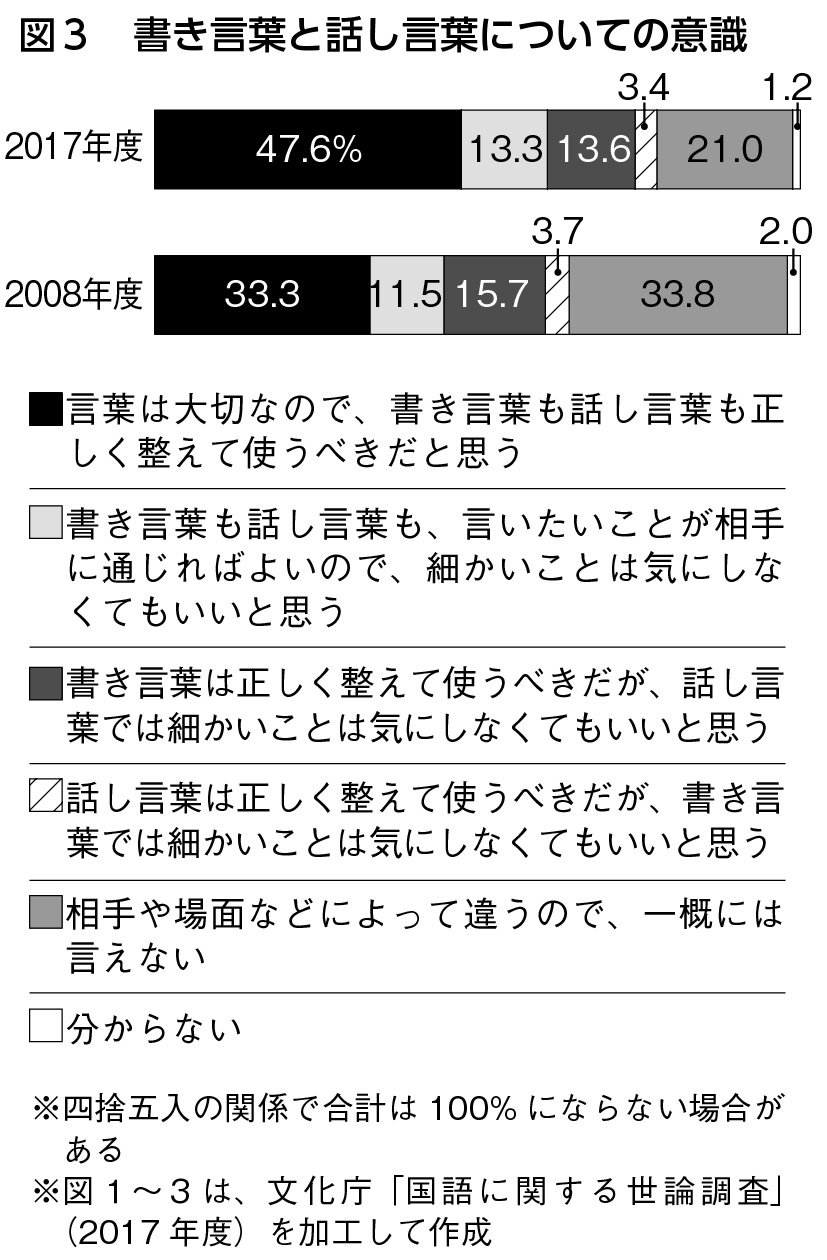
　次は２０１７年度の「国語に関する世論調査」についての解説と図示である。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 慣用句などで、本来正しいとされる使い方や意味が間違って使われる例も多く見られ、「げきを飛ばす」は、本来の「自分の考えを広く人々に知らせ同意を求める」の意味の理解が２割にとどまり、「元気のない者に刺激を与えて活気づける」と誤答を選んだ人が多かった。使い方では、「チームや部署に指図を与え指揮すること」は「を振る」が正しい使い方だが、「采配を振るう」と答えた人は５割強だった。 | 生活の中で言葉を使う際の意識も調査。「言葉は大切なので、書き言葉も話し言葉も正しく整えて使うべきだ」とした人は47・6％で、２００８年度の同じ質問より14・3ポイント増えた。「相手や場面などによって違うので、一概には言えない」は21・0％で、12・8ポイント減少した。（図３） | ２０１６年の新語大賞でもある「ほぼほぼ」。「使うことがある」は、40代以下で他の年代より高く４割から６割で、30代以下で「聞いたことはあるが使うことはない」を上回った。「聞いたことがない」は、60代以上で他の年代より高く、70歳以上で最も高い。（図２） | 「なし崩し」では、「借金をなし崩しにする」を例文に挙げたところ、本来の意味とされる「少しずつ返していくこと」と答えたのは19･５％で、「なかったことにすること」と答えた人が65・６％にのぼった。（図１） |

　このように文章だけの説明だと、結果が分かりにくい。これをそれぞれ図表によってあらわしたものが図１～図３である。図を見ながら文章を確認し、問１～問３に答えよ。







問１　図１の一つの見方として、次のような見方が紹介されている。空欄に入る語はどちらが適当か、記号で答えよ。

　本来の「少しずつ返していくこと」という意味から、「だんだんそういう状況になる」となり、「何もなかったことにしてしまう」と変化したと図１から推測することは［　　　　］。

ア　可能だ　　イ　可能ではない

［　　　　］

問２　図２「ほぼほぼ」の浸透度のグラフについて説明した次の文の空欄に入る適当な言葉をア～エから選び、記号で答えよ。

　新語大賞に選ばれた言葉だけに、若い世代で多く使われ、年代が上がるごとに使われなくなる傾向がよくわかる。この世代別の割合を比較するには、［　　　　］が全体が見渡せるので、便利である。

ア　棒グラフ　　イ　折れ線グラフ

ウ　円グラフ　　エ　帯グラフ

［　　　　］

問３　図３「書き言葉と話し言葉についての意識」から読み取れることについて、三人が話している。グラフをきちんと読み取れていないのは誰か、記号で答えよ。解答は一つとは限らない。

Ａさん　言葉を大切に思う傾向が強まり、「正しく整えて使うべきだ」と考える人が大幅に増えたことが読み取れるね。

Ｂさん　「一概には言えない」という人が大幅に減少しているよ。「言葉の使い方」の教育が効果をあげた結果が読み取れるね。

Ｃさん　「書き言葉も話し言葉も、言いたいことが相手に通じればよいので、細かいことは気にしなくてもいい」という人が、少しではあるが増えたことについて、独自の表現にこだわる人が多くなったことが読み取れるよ。

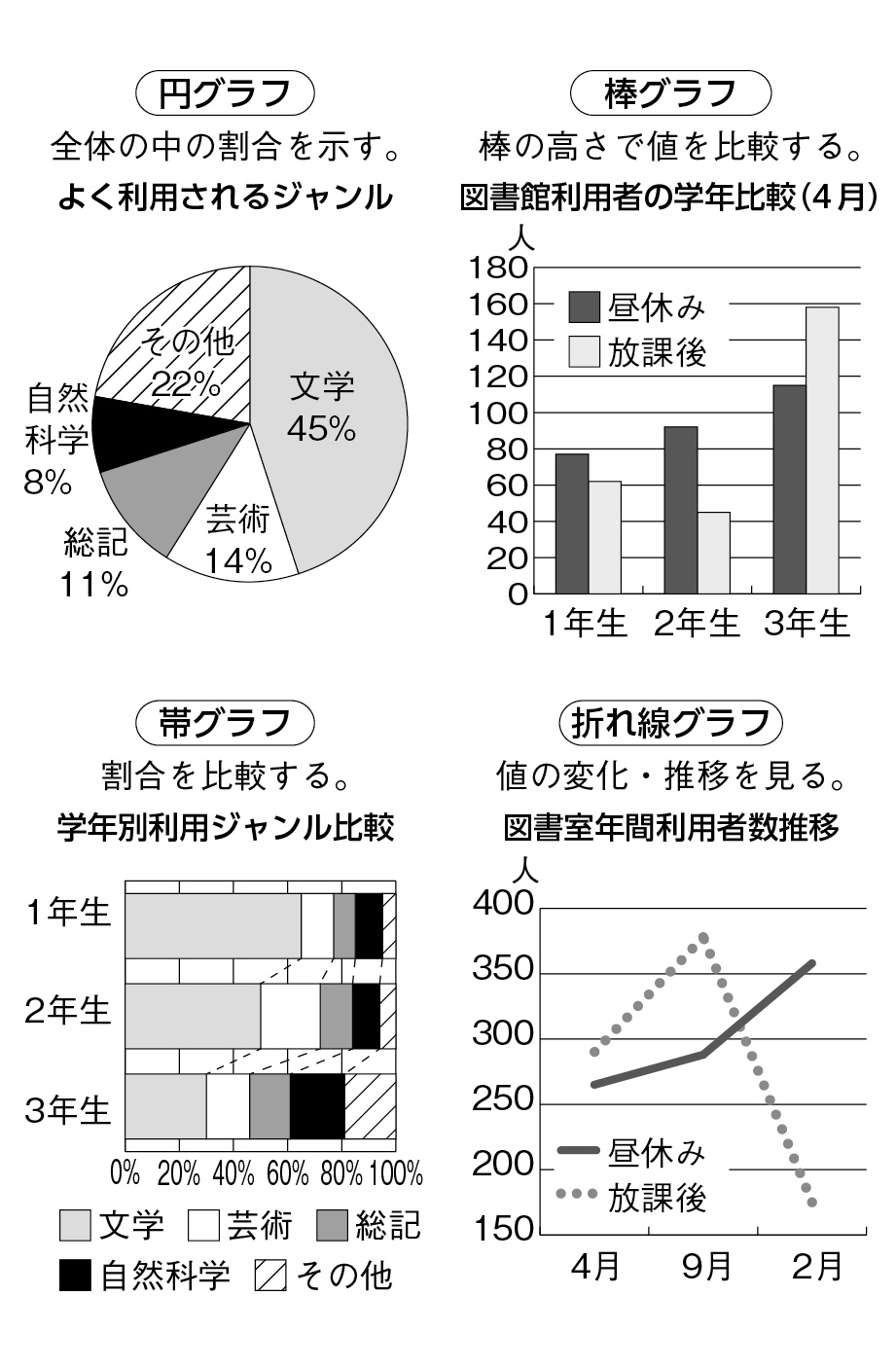
［　　　　　　　　］

POINT グラフ・図表の読み方

|  |
| --- |
| ❶全体を大きくつかむ  ⓐ何を示したものか、縦軸と横軸、項目の内容、実数か比率かなど単位を確認  ⓑ全体から見て取れる推移・変化の程度に注意  ⓒ視覚的イメージで把握 |
| **↓** |
| ❷より細かく見る  ⓐ変化や差の大きい部分を探す  ⓑ性別・年代別などの比較 |
| **↓** |
| ❸推移や変化・差の理由を考える  ⓐ一つの項目の数値が多いのはなぜか  ⓑ性別や年齢などによる違いはなぜか  　　↓  社会的な背景があるのか |

（注）効果的に伝えるためにはどの種類のグラフを用いればよいか、場合によって使い分けることが必要です。→グラフの種類と使い分け参照

POINT グラフの種類と使い分け



《解答》

問１　ア　　問２　エ　　問３　Ｂ・Ｃ